

2021年度 熊本ベルエベル美容専門学校 美容科 カリキュラム

科目			1年次	2年次	1年2年計	実務経験者が 行う授業
必修 課目	関係法規・制度		0	36	36	×
	衛生管理		34	72	106	×
	保健		31	75	106	×
	香粧品化学		0	72	72	×
	文化論		0	72	72	×
	運営管理		10	26	36	×
	美容技術理論		122	56	178	×
	美容 実習	実践授業	570	107	677	○
		国家試験カット	0	152	152	○
		国家試験ワインディング	0	67	67	○
国家試験オールウェーブ		0	102	102	○	
計		570	428	998	－	
選択 課目	HR		320	312	632	×
	マナー		14	28	42	×
	就職		57	17	74	×
	選択	1年生研修	30	0	30	×
合計			1188	1194	2382	－

基本情報			
講義名	関係法規・制度	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	0	36	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
—	—

授業内容	
授業概要	美容師免許を取得し、美容業務に就き、また、将来に独立して美容所を開設する場合に必要なとなる法令について美容師法を中心に、関連する衛生法規を授業及び複数回行う確認テストにて修得させる。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の法的知識を修得させる。そのために美容師法や関連法令の内容を体系的に理解させる。 美容師免許取得後の美容師として必要な法令等の理解。

具体的内容		
項 目	時間数	内 容
法制度の概要	2	社会生活における法の役割、法の形式(憲法・法律・命令・条令・規則) 衛生法規の概要
衛生行政の概要	3	衛生行政の意義と歴史、衛生行政の分類と生活衛生行政の内容 衛生行政を担う行政機関(環境衛生監視員含む) 復習【確認テスト】
美容師法	11	人に関する規定(美容師養成施設～試験)(免許と登録～義務) (業務停止、免許取消、再免許)(登録事項の変更)(管理美容師) 人に関する規定の復習【確認テスト】 施設に関する規定(美容所)(開設～衛生措置)(美容所外での業務) 違反者等に対する行政処分 罰則 行政処分・罰則の復習
関連法規	3	関連法規(運営・衛生・顧客に関する法律) 人に関する規定・関連法規 復習【確認テスト】
まとめ	4	期末テスト対策
国家試験対策	13	法制度の概要・衛生行政の概要 復習問題 人に関する規定 復習問題 施設に関する規定 復習問題 関連法規 復習・問題 テスト対策(国家試験過去問題)(解答・解説)

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	衛生管理	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	34	72	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の实務経験内容
—	—

授業内容	
授業概要	美容師国家試験の取得のため、また美容師の職に就くにあたり必要な衛生管理の知識を、授業及び複数回行う確認テストの実施で身に着ける。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の衛生管理における知識を修得させることまた、美容師免許取得後の美容師として必要な衛生管理に関する知識の習得を到達目標とする。

具体的内容		
項 目	時間数	内 容
公衆衛生の概要	6	公衆衛生の意義と課題(公衆衛生発展の歴史、理容師・美容師と公衆衛生) 保健所と理容業・美容業 確認テスト対策 練習問題 解答解説 確認テスト
保健	6	母子保健 確認テスト対策 練習問題 解答解説 確認テスト
テスト対策	5	復習問題 解答解説
環境衛生	12	環境衛生の概要(空気環境 空気と健康 温度、湿度、気流(風)と健康 衣服・居住の衛生) 上・下水道と廃棄物 衛生害虫とネズミ 環境保全 確認テスト対策 練習問題 解答解説 確認テスト
テスト対策	5	環境衛生 復習問題 解答解説
感染症	11	感染症の総論 常在細菌叢 免疫と予防接種 感染症の要因 感染症予防の3原則 感染症の総論 復習 確認テスト
感染症各論	7	感染症各論 理容・美容と感染症、主な感染症 具体的な対策例 感染症各論 復習 確認テスト
テスト対策	6	感染症 復習問題 解答解説
衛生管理技術	7	消毒法総論 消毒とは(消毒の意義 理容・美容の業務と消毒との関係) 消毒法と適用上の注意 消毒法総論 復習 確認テスト
消毒法各論	7	消毒法各論 理学的消毒法 化学的消毒法 すぐれた消毒法とその実施上の注意 消毒法各論 復習 確認テスト
消毒法実習	6	消毒法実習(各種消毒薬 理容所・美容所の消毒の実際 理容所・美容所の清潔法の実際) 消毒法実習 復習 確認テスト
衛生管理の実践	6	理容所及び美容所における衛生管理要領(衛生的取り扱い等 自主的管理体制) 理・美容所の自主管理点検 衛生管理の実践 復習 確認テスト

具体的内容		
項 目	時間数	内 容
テスト対策	8	復習問題 解答解説
弱点強化	2	弱点発見問題○×100問 解答解説
衛生管理技術 衛生管理の実践	3	衛生管理技術 衛生管理の実践 復習練習問題(4択) 過去問題 解答解説
1編 公衆衛生	3	復習 練習問題(4択) 過去問題 解答解説
2編 環境衛生	3	復習 練習問題(4択) 過去問題 解答解説
3編 感染症	3	復習 練習問題(4択) 過去問題 解答解説

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	保健	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	31	75	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
—	—

授業内容	
授業概要	美容師国家試験の取得のため、また美容師の職に就くにあたり必要な保健の知識を、授業複数回行う確認テストの実施で身につける。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の保健における知識を修得させることまた、美容師免許取得後の美容師として必要な保健に関する知識の習得を到達目標とする。

具体的内容		
項 目	時間	内 容
頭部・顔部・頸部の体表解剖学	3	人体各部の名称 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 確認テスト
骨格系	4	骨の種類と構造 骨の連結 骨格器系とそのはたらき 確認テスト
筋系	4	筋の種類とその特徴 主な骨格筋とその働き 表情筋と表情運動 理容・美容の作業と筋疲労 確認テスト
神経系	4	神経系の成り立ち 中枢神経と末梢神経 確認テスト
感覚器系	3	視覚 聴覚 平衡感覚 味覚 嗅覚 皮膚感覚 確認テスト
血液・循環器系	4	血液のあらまし 血液循環の仕組み循環経路 心臓と血管のはたらき リンパ管系の仕組みと働き 確認テスト
呼吸器系	5	呼吸器系のあらまし 起動 肺の仕組みとガス交換 呼吸運動 確認テスト
消化器系	5	消化器系のあらまし 仕組み 働き 消化と物質代謝 確認テスト
皮膚科学	26	皮膚の構造 皮膚の構造 確認テスト 皮膚付属器官の構造 皮膚付属器官の構造 確認テスト 皮膚の循環器系と神経系 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 確認テスト 皮膚と皮膚付属器官の保健 皮膚と皮膚付属器官の保健 確認テスト 皮膚と皮膚付属器官の疾患 皮膚と皮膚付属器官の疾患 確認テスト
期末試験対策	22	過去問中心4択問題

具体的内容		
項 目	時間	内 容
全範囲復習	26	頭部・顔部・頸部の体表解剖学 骨格系 筋系 神経系 感覚器系 血液・循環器系 呼吸器系 消化器系 皮膚科学
成績		
成績評価の方法・基準		出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

熊本ベルエール美容専門学校 美容科シラバス

基本情報			
講義名	香粧品化学	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	0	72	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
-	-

授業内容	
授業概要	美容師国家試験の取得のため、また美容師の職に就くにあたり必要な香粧品の知識を、授業及び複数回行う確認テストの実施で身に着ける。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の香粧品における知識を修得させることまた、美容師免許取得後の美容師として必要な香粧品に関する知識の習得を到達目標とする。

具体的内容		
項目	時間	内容
香粧品概論	2	香粧品の社会的意義と品質特性 香粧品の規制 香粧品の安定と取扱上の注意 香粧品の安全性
香粧品用原料	16	香粧品の対象となる人体各部の性状 水性原料 油性原料 界面活性剤 高分子化合物 色材 香料 その他の配合成分 ネイル、まつ毛エクステンション用材料 復習(4択問題) 確認テスト
基礎香粧品	7	皮膚洗浄用香粧品(石けん) 化粧水 クリーム・乳液 その他の基礎香粧品 復習(4択問題) 確認テスト
メイクアップ用香粧品	1	メイクアップ用香粧品の種類と剤形 ベースメイクアップ香粧品 ポイントメイクアップ香粧品 復習(4択問題) 確認テスト
頭皮・毛髪用香粧品	11	シャンプー剤 スタイリング剤 パーマ剤 ヘアカラー製品 育毛剤 復習(4択問題) 確認テスト
芳香製品と特殊香粧品	4	芳香製品 特殊香粧品 確認テスト
香粧品化学を理解するための基礎化学	6	物質の構成 溶解とコロイド イオンと水素イオン指数 物質の変化と化学変化 酸化・還元反応 タンパク質
期末試験対策	11	100問○×問題 過去問中心4択問題
全範囲	8	総復習(過去問中心)
4択問題	6	難易度up 4択問題

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

熊本ベルエール美容専門学校 美容科シラバス

基本情報			
講義名	文化論	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	0	72	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
－	－

授業内容	
授業概要	美容師国家試験の取得のため、また美容師の職に就くにあたり必要な美容に関しての文化論の知識を、授業及び複数回行う確認テストの実施で身に着ける。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の文化論における知識を修得させることまた、美容師免許取得後の美容師として必要な美容に関しての文化論の知識の習得を到達目標とする。

具体的内容		
項 目	時間	内 容
総論	1	総論・理美容業の発生
日本の理容業・美容業の歴史	1	江戸・近代・現代時代の理容業・美容業
ファッション文化史 日本編	21	縄文・弥生・古墳時代 古代(飛鳥・奈良・平安時代) 中世(平安末・鎌倉・室町・戦国時代) 近世(戦国末・安土桃山時代・江戸時代) 近代(明治・大正・昭和20年まで) 現代(1945年～1950年代)(1960年代～1970年代)(1980年代～1990年代)(2000年代以降) 復習 確認テスト
ファッション文化史 西洋編	19	古代エジプト 古代ギリシャ・ローマ 古代ゲルマン 中世ヨーロッパ 近世(16世紀～18世紀) 近代(18世紀末～19世紀) 現代Ⅰ(1910年代～1920年代)(1930年代～1940年代前半)(1940年代後半～1950年代) 現代Ⅱ(1960年代)(1970年代)(1980年代)(1990年代～2010年) 復習 確認テスト
礼装の種類	6	和装の礼装 洋装の礼装 確認テスト
期末試験対策	8	復習 確認テスト
総復習	16	○×問題 解答解説 過去問、ワークブック(4択問題) 解答解説 総復習

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	運営管理	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	10	26	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
-	-

授業内容	
授業概要	美容師国家試験の取得のため、また美容師の職に就くにあたり必要な運営管理の知識を、授業及び複数回行う確認テストの実施で身に着ける。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の運営管理における知識を修得させることまた、美容師免許取得後の美容師として社会人として必要な働く上での知識(運営管理)の習得を到達目標とする。

具体的内容		
項 目	時間	内 容
人という資源、作業員としての視点	9	人という資源、健康・安全な職場環境の実現、従業員としての視点から 復習 確認テスト
経営者の視点	7	経営とは・経営者とは、理容業・美容業の経営について、資金の管理 復習 確認テスト
顧客のために	7	サービス・デザイン、マーケティング、サービスにおける人の役割 復習 確認テスト
期末試験対策	7	○×問題
国家試験対策	6	過去問、ワークブック4択問題 解答解説

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容技術理論	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	122	56	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
—	—

授業内容	
授業概要	美容師国家試験の取得のため、また美容師・美容業界で活躍するにあたって重要な美容に関する基礎・応用的な知識を、技術及び接客に活かせるよう、授業及び複数回行う確認テストの実施で身に着ける。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の美容技術理論における知識を修得させることまた、美容師免許取得後の美容師・美容業界で活躍するにあたって必要な知識の修得を到達目標とする。

具体的内容		
項目	時間	内 容
序章	1	美容理論と美容技術、美容技術における作業姿勢、美容技術に必要な人体各部の名称
美容用具	2	美容技術における用具(シザー、レザー、ヘアスチーマー等)
シャンプーイング	5	シャンプーイング総論(サイド・バックシャンプー、リンス・コンディショナー、ヘッドスパ等)
美容技術理論を学ぶにあたって～シャンプーイング	1	確認テスト
ヘアデザイン	3	美容とヘアデザイン 確認テスト
ヘアカッティング	4	ヘアカッティングとは～ヘアカッティングの正しい姿勢 ブロッキング～ベーシックなカット技法、シザーズ・レザーによるカット技法 確認テスト
パーマネットウェービング	4	パーマネットウェーブの歴史と現在、理論、パーマ剤の分類 パーマ剤に関する注意事項、パーマネットウェーブ技術 ワインディングのバリエーション、縮毛矯正 確認テスト
ヘアセッティング	6	ヘアセッティングとは、パーティング、シェーピング、カーリング ヘアウェービング、ローラーカーリング、ブロードライ アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウィッグとヘアピース 確認テスト
ヘアカラーリング	5	ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、タイプ別特徴 染毛のメカニズム、色の基本、毛髪のレベルとアンダートーン パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項、ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤 酸性染毛料の技術手順、ヘアブリーチ 確認テスト
美容技術理論を学ぶにあたって～ヘアカラーリング	24	復習 4択問題練習 解答解説
エステティク	5	エステティク概論、皮膚の整理と構造、カウンセリング、マッサージ理論、 フェイシャルケア技術、フェイシャル及びデコルテマッサージ、 フェイシャルパック、ボディケア技術、ボディマッサージ、確認テスト
ネイル技術	6	ネイル技術概論・種類、爪の構造と機能、爪のカット形状、ネイル技術と公衆衛生 カウンセリング、ネイルケア アーティフィシャルネイル、手と足のマッサージ 確認テスト

具体的内容		
項目	時間	内 容
メイクアップ	6	メイクアップ概論、顔の形態学的な観察、色彩、皮膚の整理と構造、メイクアップの道具 スキンケア、ベースメイクアップ アイメイクアップ、アイブロウメイクアップ、リップメイクアップ ブラッシュオンメイクアップ、まつ毛エクステンション 確認テスト
日本髪	4	日本髪の由来、各部名称、種類と特徴、調和、装飾品、結髪道具 日本髪の結髪技術、手入れ、かつら 確認テスト
着付けの 理論と技術	5	着付けの目的、礼装、着物と季節、着物のいろいろ 帯、小物、着物の各部名称、着物のたたみ方、着付けの一般的要領 留袖・振袖着付け技術、帯締め・帯揚げの結び方、男子礼装羽織、袴着付け技術 羽織のひもの結び方、女子袴着付け技術 婚礼着付けの際の注意事項、和装花嫁、洋装花嫁 確認テスト
エステティック～ 着付けの理論と技術	23	復習 4択問題練習 解答解説
総復習	74	4択問題、○×問題、過去問 解答解説 ワークブック 解答開設 確認テスト

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容実習(実践技術)	実務経験のある者の授業	○
授業形態	実技	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	570	107	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の实務経験内容
美容師	美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。

授業内容	
授業概要	美容師として必要なカラー、パーマ、ヘアアレンジ、シャンプー等の技術を実践的なレベルで学ぶ。
授業の到達目標	美容師として入社後即戦力となれる力をつけることを目標とする。

具体的内容		
項目	時間	内 容
実践カット	175	基本姿勢 ワンレングスカット(理論の理解、カット、ブロー) グラデーションカット(理論の理解、カット、ブロー) セიმレイヤーカット(理論の理解、カット、ブロー) メンズカット刈り上げ、マッシュ(理論の理解、カット、スタイリング)
カラー	110	ヘアカラー知識 おしゃれ染め、グレイカラー、ハイライト、リタッチ
パーマ	122	道具の説明、身だしなみ、名称確認 ブロッキング、上巻き、下巻き センター構成、フロント構成、サイド構成、バックサイド、ネープ スパイラル巻き タイム調整 スタイル及びタイムの強化 確認テスト
ヘアアレンジ	95	準備、説明、机上セッティング 1束、シニヨン、ローブ編み、三つ編み、四つ編み、フィッシュボーン、三つ編みバラ 夜会巻き 作品制作 確認テスト
シャンプー	134	事前準備(椅子のセッティング、温度調整、机上準備物)、シャンプークロス、椅子の倒し方 工程確認、リアシャンプー実践 弱点教化 ヘッドスパ 確認テスト
カウンセリング	41	カウンセリングの目的と方法、ポジティブエンカウンター、コミュニケーションの取り方 第一印象の重要性、話し方 お出迎え、ご案内、カウンセリングシート カウンセリングの理想とは、アイスブレイク カウンセリング実践 お見送り 応用技術 確認テスト

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容実習(国家試験カット)	実務経験のある者の授業	○
授業形態	実技	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	0	152	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
美容師	美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。

授業内容	
授業概要	美容師国家試験課題カットの合格に向けてのカッティング技術を身に付ける。 カット技術、理論、衛生面での知識を学び、確実に美容師国家試験に合格できるよう反復練習、弱点強化を授業にて実施する。
授業の到達目標	美容師国家試験のカット課題の合格基準をクリアできる技術・知識を身に付けること。

具体的内容		
項目	時間	内 容
スタイル説明	3	作業工程板書、デモンストレーション※全行程
工程理解	15	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトライン工程 各ブロックごとにデモを実施し実践 シェーブの方向、カットラインの注意点 ・アンダーセクションのカット デモ後実践、引き出す角度の理解 ・オーバーセクションのカット デモ後実践、引き出す角度を理解させる、展開図をイメージ ・チェックカットの工程確認及び実践 ・各ブロックごとに工程及び注意点を再度確認
タイム強化①	3	手順確認及びタイムアップ
スタイル及びタイム強化①	3	全頭タイムトライ 25分 確認テスト
各工程の強化	12	アウトライン、アンダーセクション、オーバーセクション、チェックカットの確認、強化
スタイル及びタイム強化②	6	各ブロック毎のタイムトライ、タイムトライ後セクション毎にチェック 全頭タイムトライ 確認テスト
スタイル復習	15	アウトライン、アンダーセクション、オーバーセクション復習 手順の復習
タイム強化②	6	全頭タイムトライ
スタイル強化①	3	各セクションの注意点確認、各セクション毎のカット、正確なカットの心掛け 確認テスト
タイム強化③	6	全頭タイムトライ(弱点の把握、改善)
スタイル強化②	9	弱点再確認 各セクション毎のタイムトライ 引き出し位置、角度を確認する 全頭タイムトライ 確認テスト
スタイル及びタイム強化③	18	全頭タイムトライ(工程、立ち位置、姿勢、角度をチェック) 採点項目に沿って自己採点、弱点確認
衛生面指導	9	準備物 準備工程説明、机上準備の説明、審査項目の落とし込み、準備時間実践 表示の確認 準備時間～カット終了までを実践 道具がそろっているか確認、衛生面の審査項目復習、机上準備の再確認

具体的内容		
項目	時間	内 容
スタイル復習 確認テスト	9	チェックカットの工程確認及び実践 審査項目の再確認及びチェック 国家試験スタイル 20分
タイム強化④	10	全頭タイムトライ 審査項目に沿って自己採点、国家試験スタイル 確認テスト
弱点強化	10	各弱点を伝え強化を図る
最終調整	15	準備～顔拭きまでの全工程実践、注意点確認 衛生審査項目最終確認、実技審査項目最終確認 審査項目に沿ってチェックカット実施 全頭タイムトライ 自己採点、弱点強化

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容実習(国家試験ワインディング)	実務経験のある者の授業	○
授業形態	実技	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	0	67	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
美容師	美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。

授業内容	
授業概要	美容師国家試験課題ワインディングの合格に向けてのワインディング技術を身に付ける。 ワインディング技術、理論、衛生面での知識を学び、確実に美容師国家試験に合格できるよう反復練習、弱点強化を授業にて実施する。
授業の到達目標	美容師国家試験のワインディング課題の合格基準をクリアできる技術・知識を身に付けること。

具体的内容		
項 目	時間	内 容
ブロッキング	5	4ブロックの幅確認、実践
センター強化	10	4ブロックの幅確認、スライス幅強化
フロント・バックサイド・サイドの構成	28	構成確認、巻き収まりの復習、引き出す角度確認テスト
スタイル及びタイム強化	21	タイムトライアル(ブロックごと、全頭) 採点項目のチェック 減点項目の多い箇所のトレーニング
採点項目理解	3	採点項目の復習・きれいな巻き、作品作成

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容実習(国家試験オールウェーブ)	実務経験のある者の授業	○
授業形態	実技	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	0	102	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
美容師	美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。

授業内容	
授業概要	美容師国家試験課題オールウェーブの合格に向けてのオールウェーブ技術を身に付ける。技術、理論、衛生面での知識を学び、確実に美容師国家試験に合格できるよう反復練習、弱点強化を授業にて実施する。
授業の到達目標	美容師国家試験のオールウェーブ課題の合格基準をクリアできる技術・知識を身に付けること。

具体的内容		
項 目	時間	内 容
準備	5	ウィッグブロッキング、カット、パーマ セッティング・準備・コンディショニング
ハーフウェーブ	4	基本動作指導(コームの持ち方、動かし方)、ウェーブ理論 ハーフウェーブ、リッジの作り方、実践
馬蹄形	20	馬蹄形をくりぬく(2～7段目の作成) 全頭作成
ポイント強化	23	正しい机上の配置を覚える、正しいコンディショニングの理解 ピンを正しく開き留められるようにする、スカルプチュアカールの作り方 馬蹄形の理論、馬蹄のスカルプチュアカールの実践 構成の理解 タイム内で正しく作成
ウェーブの強化	15	ウェーブ・カールの強化
国家試験弱点把握	5	国家試験スタイル弱点把握テスト、模擬試験
弱点別強化	20	各個人の弱点強化(ウェーブ、バランス、カール)
衛生面	7	衛生面の再確認、準備時間実践及びチェック 衛生含む全頭
タイム・スタイル強化	3	全頭タイムトライ、審査項目に沿って自己採点

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

授業内容	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒間のコミュニケーション向上。 ・コンプライアンスや一般常識、社会の危険知識を身に付ける。 ・イベントを通して美容の面白さや、多くの人との関わり合い・協調性を身に付ける。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活での一般常識や守らなければならないこと、チームで力を合わせ取り組む姿勢、社会に出てからの一般常識や危険性の知識習得を目標とする。

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、レポートの提出等を総合的に判断し、成績評価を行う。

基本情報			
講義名	マナー	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	選択
授業時間数	1年次	2年次	
	14	28	
担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)			
職種	担当する教員の実務経験内容		
-	-		
授業内容			
授業概要	職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくための必要なマナー・スキル・人間力を取得させる		
授業の到達目標	卒業後、業界・就職先にて技術だけでなく、接客のプロとして即戦力で活躍できる人材に育成することを目標とする。		
具体的内容			
項 目	時間数	内 容	
挨拶	2	あいさつをする理由、あいさつの順序、あいさつの言葉と注意事項、実践訓練	
主体性Ⅰ	4	定義(物事に進んで取り組む力)の理解 定義を理解した上での、現状「できていないところ」に気付く	
主体性Ⅱ	3	今後改善しなければならない事を理解する。事例をもとに、改善に向け訓練をおこなう。	
実行力Ⅰ	4	定義(目的を設定し確実に行動する力)の理解 定義を理解した上での、現状「できていないところ」に気付く	
実行力Ⅱ	3	今後改善しなければならない事を理解する。 事例をもとに、改善に向け訓練をおこなう。	
柔軟性Ⅰ	3	定義(意見の違いや立場の違いを理解する力)の理解 定義を理解した上での、現状「できていないところ」に気付く	
柔軟性Ⅱ	3	今後改善しなければならない事を理解する。 事例をもとに、改善に向け訓練をおこなう。	
課題発見力Ⅰ	4	定義(現状を分析し目的や課題を明らかにする力)の理解 定義を理解した上での、現状「できていないところ」に気付く	
課題発見力Ⅱ	3	今後改善しなければならない事を理解する。 事例をもとに、改善に向け訓練をおこなう。	
ストレスコントロール力Ⅰ	4	定義(ストレスの発生源に対処する力)の理解 定義を理解した上での、現状「できていないところ」に気付く	
ストレスコントロール力Ⅱ	3	今後改善しなければならない事を理解する。 事例をもとに、改善に向け訓練をおこなう。	
創造力Ⅰ	3	定義(新しい価値を生み出す力)の理解 定義を理解した上での、現状「できていないところ」に気付く	
創造力Ⅱ	3	今後改善しなければならない事を理解する。 事例をもとに、改善に向け訓練をおこなう。	
成績			
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、確認テスト、レポートの提出等を総合的に判断し、成績評価を行う。		

基本情報			
講義名	就職	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	選択
授業時間数	1年次	2年次	
	57	17	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
—	—

授業内容	
授業概要	入社したい会社に入る為の就職活動をする上での対策・マナーの学習はもちろんのこと、自分の将来を考えた上での企業の選定方法や選定する上で気を付けなければならないことを学ぶ。
授業の到達目標	生徒が持っている将来像をはっきりとしたものにさせ、その将来像を目指すにあたっての企業選定や、就職活動をする上での対策やマナー等を習得させ、より良い就職をさせることを目標とする。

具体的内容		
項目	時間数	内 容
美容業界とは	8	美容業界の仕事、サロンの種類、有名店、職種、離職防止
キャリアプラン	9	価値観、キャリアプランシート作成、業界理解
現場	2	サロンのピックアップ、情報収集、見学、マナー
情報収集	14	求人票の味方、自分の条件、サロン見学、説明会
履歴書	6	応募書類、書き方、自己PR、自己分析
企業研究	22	有名店・中型店・個人店の調査、面談シートとのギャップ、志望動機作成シート
面接	9	面接試験について、面接とは、ポイント、シミュレーション、模擬試験、グループディスカッション
内定	4	内定後の書類

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、確認テスト、レポートの提出等を総合的に判断し、成績評価を行う。

基本情報			
講義名	選択	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	選択
授業時間数	1年次	2年次	
	30	0	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の实務経験内容
—	—

授業内容	
授業概要	・1年生研修(新しく入学してきた生徒に対し、学校生活の基本及びクラスメイト、教員との「絆」づくりをテーマとする。)
授業の到達目標	・「絆」づくり＝「居場所」づくりを行い、学校生活の楽しさの理解

具体的内容		
項 目	時間数	内 容
1年生研修	30	自己紹介・教材配布・年間学校スケジュール 学校規則・ルール・掃除方法レクチャー 業界セミナー 各グループ毎に、「アクティビティ」を実行。コミュニケーションを深める 挨拶訓練・指導。自身の挨拶と、求める挨拶の違いを知る。

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、レポートの提出等を総合的に判断し、成績評価を行う。